

■ 第76回調査研究方法検討会かわら版 ■

去る2020年6月27日(土) オンライン会議システム ZOOM を使用して、第76回調査研究方法検討会が開催されました。

検討会の報告要旨は、各演者の方へお願いしております。ご発表いただいた研究の概要とともに、検討会で議論された内容も含めご報告いたします。

27日(土)

「2019-2020年シーズン RSV 調査報告と今季調査可否について」

齋藤玲子

2018/19シーズンの結果と2019/20シーズンの途中経過を報告し、来季の協力をお願いしました。

ウイルスの型別では、A型は144(33.6%)、B型は66例(14.0%)と2019/20年シーズンは、A型のRSウイルスが優勢であった。地域別にみても、すべての地域でA型が優勢であった。2018/19シーズンでは、B型のRSウイルスが優勢だったため交代現象が起きたと考えられる。

また、陽性のピークは、北海道から九州までの地域では8~9月にみられたが、沖縄ではそれよりも2か月ほど早い傾向が認められた。感染研の結果では、今シーズンは例年と比べ、全国的にRSウイルス感染症の報告数が減少しているが、これは新型コロナウイルスの影響(感染予防行動、海外渡航者の減少、受診控え)が原因であると考えられた。

発表後に議論された内容として、スワブによる採材は新型コロナウイルスの感染リスクがある点が挙げられたが、参加の可否は個々の先生方に判断して頂き、採材時は感染予防を行うという結論に至った。また、このような時だからこそ調査の意義があるとの意見も頂いた。その他、新型コロナウイルスが唾液から検出されることから、RSウイルスでも可能であれば、唾液を鼻腔咽頭拭い液と同様にスワブで採材した後、ウイルス輸送培地で保存し、従来の方法と比較することとなった。

今シーズンは検体数が少ないことが予想されるが、従来の調査に加え、唾液検体での比較も行う予定である。

「ほぼ完全母乳栄養児の軽度鉄欠乏性貧血における至適鉄補充量を検討するシングルブラインド無作為化比較試験」

富本 和彦

【背景】本邦では母乳栄養を選択する母親は多い。母乳中の鉄濃度は0.3mg/Lと極めて低いが、補完食指導では鉄含有量の少ないものが中心で、本邦の母乳栄養児では鉄供給が不

充分になっている可能性がある。また、鉄欠乏の児に対する有効かつ安全な鉄補充量は定まっていない。

【目的】乳児期後期の母乳栄養児において鉄充足状態をスクリーニングして鉄の充足状態を評価し、鉄欠乏性貧血児における補充鉄剤の至適投与量を検討する。

#### 【方法】

鉄欠乏性貧血(Hb 値 11.0g/dl 未満かつ、血清フェリチン値 20  $\mu\text{g/L}$  未満)のものを、ランダムに 2mg/kg/day 補充群と 4mg/kg/day 補充群に分け、投与 4,8,12 週後に、末梢血血液検査、血清フェリチン値を測定する。また、排便状態と便中 Calprotectin を評価し、鉄過剰による腸管内炎症も併せて評価する。

主要評価項目：8 週間後のフェリチン値  $\geq 20 \mu\text{g/L}$  となった症例数

副次評価項目：4,8,12 週間後の血液学的鉄欠乏状態、排便状態の変化、便中 Calprotectin サンプル数 各群 29 例と計算された。

「小児科診療所勤務者における新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 血中抗体の推移の検討」経過報告

日野利治、長田秀和

2020 年 3 月リサーチ委員会 ML で検討頂き、4 月倫理審査が承認された表題研究を 4 月から開始したので報告した。KAPSG を中心とする全国 19 カ所の共同研究者の医療機関勤務者 134 名が対象者となった。内訳で性別は男性 20 名、女性 114 名、年齢は 20 歳台 6 名、30 歳台 17 名、40 歳台 41 名、50 歳台 46 名、60 歳台 23 名、70 歳台 1 名、職種は医師 24 名、看護師 52 名、事務職 51 名、保育士その他 7 名、小児科単科診療所 104 人、小児科内科診療所 30 人であった。4 月に 1 回目採血を終えたが、それまでの 6 ヶ月間勤務中常にマスク着用は 87 名、常にはないが 47 名であった COVID-19 との接触は 5 名にあり、濃厚接触は 2 名であった。

研究計画提出時未定だった抗体検査は、長崎大学熱帯医学研究所ウイルス学分野の森田教授らが確立した ELISA 法を新潟大学にて実施することになった。本 ELISA 法は新型コロナウイルスのヌクレオカプシドを抗原として使用し、血清中の IgG 抗体を検出する。カットオフ値は暫定的で今後変更する可能性はあるが、陽性または判定保留検体は長崎大学へ中和試験を依頼する予定である。今後は試薬等が揃い次第、順次検査を実施する。7 月中に第 1 回採血分の結果を報告することを目標とする。

「小児における新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 血中抗体価の調査」

杉村徹

【背景】2019 年 12 月に中国武漢市で発生した新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 感染症は全世界に拡大した。一般小児科診療所において SARS-CoV-2 感染者からの暴露が予想

されるが、小児における SARS-CoV-2 の血中抗体の推移や不顕性感染の定道は不明である。

【目的】小児科診療所に来院した小児における SARS-CoV-2 罹患や接触状況、SARS-CoV-2 抗体保有状況の経年的な推移を調査し、小児科診療疎における小児の SARS-CoV-2 抗体陽性率から、小児の不顕性感染率を推定する。

【対象と方法】小児科外来を受診した 0 歳から 15 歳の小児を対象として、調査の目的・方法を保護者へ説明し同意を得て、SARS-CoV-2 抗体検査のための採血を行う。

【議論内容】6 月に本邦で行われた小児の抗体検査結果から、SARS-CoV-2 抗体保有率が 0.03 から 0.17% と少なく地域差もあることから、対象地域の検討や調査時期、調査間隔について考慮する必要があること。また、95%信頼度を得るためには、概ね対象サンプル数は 2000 件必要であることなどのご意見をいただいた。

#### 「小児におけるマスク装着による問題点調査」

杉村徹

【背景】新型コロナウイルス (COVID-19) 感染予防対策の一つとして、マスク装着が推奨されている。2 歳以下の乳児においては、窒息などのリスクがあるため、米国疾病管理予防センター (CDC) や日本小児科医会からマスクを装着しないようにとの声明がでた。一方、その他の年齢では、すべての幼児や学童において、在園や在校中は運動時を除いて、常時マスクの装着が行われている。このように集団生活環境下で、マスク装着による小児の身体や精神への影響は不明である。

【目的】在園や在校時にマスク装着を行っている小児における問題点を調査し、その結果を小児の健康の支援や維持のために役立てる。

【方法】対象：5 歳以上 12 歳の幼児や学童。方法：アンケート調査 (小児科クリニック来院者で調査)。

問題点調査としたためアンケート内容がマイナスな問いになっており、COVID-19 感染リスクの地域差もあり、マスク着用をすることでの安心感など、利点の問いも必要ではとの意見があった。

#### 「SARS-COV-2 感染症 学校再開に伴う課題」

沼口俊介

3 密対策が重要視されるように SARS-COV-2 感染症は地域差があるが全国の非常事態宣言後に順次各地域で学校、保育園の再開となり今後の課題について相談した。

委員会で相談した時点では東京では 50 名前後の陽性者で推移していたが、その後 100 名～200 名/日となり増加の一途を辿っており学校でもクラスターが発生し、さらに乳児例も増え高齢者への影響が益々心配な状況となっている。

相談発表した時点での東京都の学校再開の基準、練馬区での実態を報告し、地域でのコ

ロナ感染症把握する方法としての症候群サーベランスである学校欠席サーベランスの実態ならびにジョンズノーのコレラ地図に代表される地理情報による感染症情報について相談した。

#### 「予防接種供給不足に関するアンケート」

中村 豊

予防接種は私たち小児科医にとって重要な仕事で、適切な時期に接種をすることは、個人の感染防止のみならず、社会集団での流行阻止に有効である。にもかかわらず、接種をしたくてもワクチンが手に入らないという事態がたびたび生じている。各施設での現状と対応をお聞きし、結果を発信するためのアンケートを計画した。アンケートの案文を提示し、検討会参加者から種々のコメントを頂いた。それらのコメントを取り込んだ形で再度、アンケート文を練り直し、予防接種委員会から日本外来小児科学会会員に向け、Web を利用してのアンケートを行った。結果については、日本ワクチン学会、日本外来小児科学会で発表する。

#### 「新型コロナ流行後の小児科外来についてのアンケート」

中村 豊

新型コロナウイルス感染症の流行は、外来小児科の在り方を大きく変える事件であった。患者数の減少とそれに伴う経営状態の悪化、感染対策や風評被害対策など多くの問題が生じた。しかし「ピンチはチャンスである。」クリニックの在り方を考えることができる時間でもあった。外来小児科学会会員がこの時期どのように対応をしていたのか、今後どのように変わっていくのがいいのか。会員の試みを聞いていくためのアンケートを企画し、案文を提示した。検討会参加者より、修正点を多々指摘された。流行状況をみつつ、いつアンケートをするのがいいのかさらに文章の修正をしている。

連絡先：〒820-0040 福岡県飯塚市吉原町 537 いいづかこども診療所 牟田広実  
FAX: 0948-80-5632 , E-mail: qze05346@nifty.com